

埼玉県知事 大野元裕様

2026年9月2日
日本共産党埼玉県議会議員団
団長 城下のり子

熊本地震・千葉豪雨災害を経て、防災力の抜本的向上を求める要望書

7月28日の熊本地震・8月13日の千葉豪雨災害と重大な災害が相次いでいます。亡くなられたみな様のご冥福を心よりお祈りし、被災者のみな様にお見舞いを申し上げます。埼玉県としてはいち早く職員チームを派遣するなど支援を尽くしておられますが、引き続きご支援を継続していただきたいと思います。

同時に、両災害の教訓をいち早く本県の防災力強化に生かしていただきたいと思います。

熊本地震では、一時避難所に多数の被災者が集中し、その環境の酷さが報道されました。特に、酷暑の中体育館などの一時避難所にエアコンがない、床に毛布を引いて雑魚寝をされていて眠ることもできない、何日もパンが続き温かいものや野菜が食べられないなどが災害関連死を引き起こしています。

県議団は、これまで一般質問等で「スフィア基準」に準拠した一時避難所体制を求めると同時に、イタリアの防災体制を例に挙げ「TKB48」＝48時間以内に段ボールベッドとトイレカーとキッチンカーを被災地にプッシュ型支援すべきだと主張してきました。この点で県の防災拠点には飲料水や簡易型トイレなどは備蓄されていますが、段ボールベッドは圧倒的に足りません。トイレカーの配備も進めるべきです。

千葉豪雨では、冠水の恐ろしさや帰宅困難者問題が浮き彫りになりました。県道の排水対策の強化や冠水侵入防止の工夫が求められます。また駅周辺の県有施設をはじめ、商業施設との協定などを結び、応急駐車場や応急避難所を準備すべきです。

したがって、これらの災害の教訓として、県自らまた市町村への支援強化によって今抜本的に強化すべき点を、以下強く要望します。

- 一、小中学校とりわけ県立学校の体育館、県民活動総合センターなど県有施設の体育館のエアコンを早急に整備すること。
- 一、県防災拠点における備蓄品として、段ボールベッド・間仕切り・簡易テントを至急増強すること。

- 一、全県のトイレカーの配備を強化すること
- 一、キッチンカー関連団体と協定を結び、発災４８時間以内に避難所で食事提供を開始すること
- 一、河川の排水設備の強化、道路の排水施設の強化を図ること。
- 一、アンダーパスなどの冠水道路への侵入防止対策を強化すること
- 一、駅周辺の県有施設では、帰宅困難者受け入れに備えること。民間商業施設と協定を結び、駐車場の提供や物資の提供を可能とすること。

以上